

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) カナガワダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) ユキモト セイキ
神奈川大学	経営学部	行本 勢基ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) オモテナシンバウンド	フリガナ) オオイケ ユウカ	4	無	無
おもてなしインバウンド	大池 唯華			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)
QR コードメニュー

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)
おもてなしインバウンド～飲食店のインバウンド対策～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

現在世界中でグローバル化が進むに連れて、日本におけるインバウンドも増加傾向にある。しかし、日本では外国人の受け入れ態勢が整っていないところが多く、対応することができていない。そこで、日本のインバウンド対策を改善するために箱根をモデルケースにし、飲食店のメニュー多言語表記サービスを実施することで円滑なコミュニケーションを実現する。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

日本の代表的な観光地である箱根では、外国人観光客の増加に伴い、観光協会によるインバウンド対策がなされている。しかし、観光協会では飲食店へのインバウンド対策の関与はしておらず、各飲食店が独自で対策をとっている状態だ。聞き取り調査をした店舗では 9 割近くの顧客が外国人であるのに対し、英語が話せるスタッフは一人しかおらず、ほかのスタッフはスマホの翻訳機能を利用しながら対応している。このように、小規模経営の多い箱根では、多言語対応がなされておらず、接客の際にお互い情報交換が出来ず、店舗の魅力が半減してしまうという事態が起こっている。

また、上記の通り箱根地域の飲食店における言語的な問題は行政が手厚くサポートしてくれるわけではないため、各店舗で何とかしなければならない。その解決策として多言語メニューを作成できるサービスは存在しているのだが、小規模飲食店が利用するには金銭的にハードルが高い。小規模飲食店において、コミュニケーションが円滑に正確に行うことができる何らかの安価ツ-

ルを開発することが必要である。

3. 研究テーマの課題

小規模経営の飲食店において、円滑で正確な多言語コミュニケーションを補助するための安価なコミュニケーションツールを開発すること。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

QRコードメニュー（翻訳とQRコード化・製本サービス 含む）

インバウンド対策としてもうすでに多言語メニューサービスは存在しているが、そのようなサービスを利用している店があまり見受けられない。実際にモデルケースとして研究対象にした箱根地域を管轄する小田原商工会議所箱根支部に取材を行ったところ、そのようなサービスを利用している店は少なく、小規模経営の飲食店では予算的にも厳しいのが現実だとのことだった。加えて、箱根に店舗を構える「田村銀かつ亭」でもインバウンド対策の現状について聞き取り調査を行ったところ、近年の爆発的なインバウンドの増加に伴い、小規模飲食店における多言語メニューの需要が増えることも確かだ。そこに着目し、今回、発案したのがこのQRコードメニューである。

ターゲットは上記でも述べた小規模経営の飲食店。既存のサービスとの差別化としては、第一に低価格であること、第二に翻訳手段が留学生であること、第三にオフラインで利用できることだ。

このサービスのキャッシュポイントとしては、次の2つがある

1. 飲食店から受けた翻訳の依頼料金 1文字 5円と、留学生に対する翻訳の報酬 1文字 3円の差額
2. 製本にかかる必要経費に利益を上乗せした差額

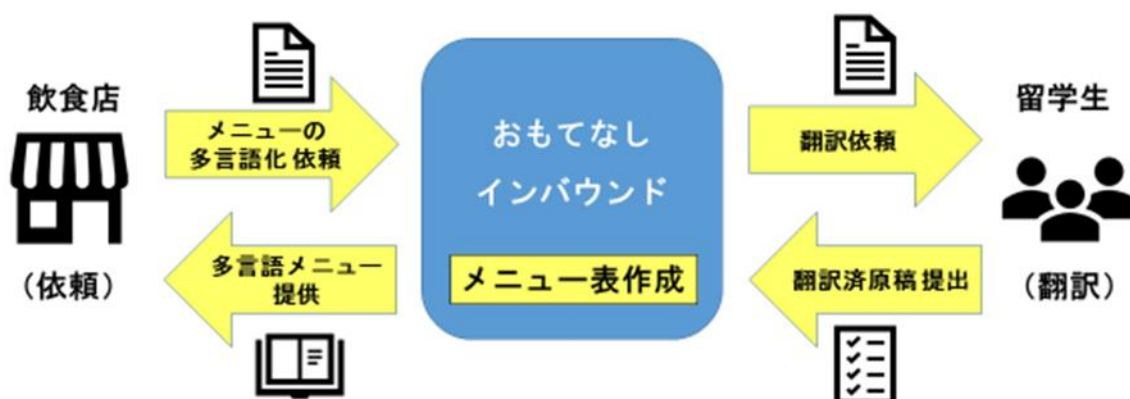
翻訳とQRコード化サービス

1. 飲食店がメニューの原文を提出して翻訳を依頼する
2. 私たちが提供する我々がその仲介役となり、留学生に原文を渡し、翻訳してもらう
3. 翻訳された文書を受け取り、チェック役の留学生に流す
4. ダブルチェック済みの翻訳文を受け取り、デンソーウェブが提供するQRコード生成サービスを使用してQRコード化する

製本サービス

1. メニュー作成の見積書を作成（価格、部数、デザイン、製本の仕様）
2. 翻訳された文書を見積書に従ってメニューをデザイン、印刷、製本する
3. 納品

<サービスの流れ>



多言語メニュー例 (ラッキイズ・カフェ)

パスタ PASTA 全 1,000 円+税

6. ほうれん草とサーモンのクリームソースパスタ

サーモンのチップが入った
うまみのあるソースに
ほうれん草がたっぷり入っています。
クリーミーな味わいが楽しめる食べ応えのあるパスタです。

English 中文 한국

6. [QR Code] [QR Code] [QR Code]

QRコードをスマートフォンのカメラで読み取ると...

英語

Pasta All ¥1,000+tax
6. Cream pasta with Spinach and Salmon
There is plenty of spinach and salmon chips in delicious sa...
This pasta is very filling. Ple...
enjoy creamy flavor.

中国語

餐點所有 ¥1,000 + 稅
6. 菠菜和三文魚奶油意大利面
美味的醬汁中有許多菠菜和鮭魚
這意大利面很飽。請享受奶油

韓国語

【분력 파스타 피어】모두 1000원 + 세
금
6. 시금치와 연어의 크림 파스타
연어의 힘이 들어간 맛있는 소스에 시
금치가 듬뿍...
크림 모양의 맛을 즐길 수 있어 만족감
을 주는 파스타입니다.

5. 研究・活動内容 (アンケート調査、商品開発など)

・現状把握

代表的な観光地である箱根がどのようなインバウンド対策をしているのかを知るために箱根観光協会（箱根 DMO）や商工会議所を訪問し、聞き取り調査を行い、飲食店のインバウンド対策は進められていないことが分かった。

・ニーズ調査

箱根に店舗を構える飲食店、特に小規模経営者にニーズ調査としてアンケート、聞き取り調査を実施し、各飲食店が抱える問題点を把握する。

・解決策

問題点が言語問題であることから、メニューを多言語化する解決策を考案。ただ、原文を翻訳しただけの多言語メニューではなく、QRコードを用いて料理の詳細方法を素早く3つの言語で、かつオフラインで伝えることができるメニューを考案した。

・検証

実際に作成したメニューを箱根地域の小規模経営飲食店 2 店舗にて試験運用してもらい、検証を 2 週間実施し、検証後のフィードバックを元にメニューを改善。

6. 結果や今後の取り組み

検証の結果、実際に上記、小規模経営飲食店の 2 店舗で使用していただいたところ、外国人観光客のお客さんに料理の説明を理解してもらえたため接客が円滑になったとのフィードバックをいただき、自分たちの目標としていたことが実現した。しかし、「メニューを製本しないと見栄えが悪い」、「すべて QR コード化するのではなく、詳細説明が必要なものだけを QR コード化したほうが使いやすい」、などのお店側の利便性に関する感想もいただいたので、より使いやすく、見栄えもよくなるよう、改善していきたい。

このように、検証と改善を繰り返しながら実際にどれぐらいのクオリティで値段を設定し、利用してもらえるかを 10 月中に明確化する。その後、Facebook などのネットワークを利用して募集をし、年内に各言語 10 人ずつの留学生を確保する。十分な数の翻訳者を確保できた後に商工会議所を通して小規模飲食店へ PR し、年内に 10 軒以上の利用者を獲得する。

7. 参考文献

・神奈川県外国人観光客実態調査

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ya3/cnt/f80022/documents/876950.pdf>

・多言語翻訳アプリ | SmartMenu 飲食店向け外国語メニューアプリ

<https://www.smart-menu.jp/menu-translator/>

・セカイメニュー - 無料で始めるインバウンド対応 QR コード！多言語対応セルフオーダー機能付き

<http://sekaime.nu/ja/>

・QR Code Generator

<https://www.the-qr-code-generator.com/>

・QR Code メーカー

<https://m.qrqrq.com/>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経BPマーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、ます。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください